

V 卒業・進級のために修得すべき授業科目・単位

大学における「修業年限」は4年（医学部医学科では6年）であり、学生は、通常、この修業年限のうちに卒業するために必要な単位（卒業要件単位）を修得し、卒業することになります。

また、学部によっては進級制度が採用されており、その場合には1年次から2年次、2年次から3年次、あるいは3年次から4年次へと、上位の年次に進級するために必要な単位（進級要件単位）を修得していないと、留年しなければなりません。

なお、上記の「修業年限」とは別に、学生が大学に在学できる通算の年限を「在学年限」といいますが、本学が定める「在学年限」は休学期間を除き、医学部医学科以外の学部及び医学部保健学科については8年、医学部医学科については12年であり、いずれも「修業年限」の2倍の年数になっています。

卒業要件や進級要件など、4年間（医学部医学科では6年間）にわたる教育課程は、それぞれの学部が、それぞれの教育方針に基づいて定めています。したがって、所属する学部の卒業要件及び進級制度の有無とそれがあある場合の内容を十分確認し、間違いのないように各自履修計画を立てるようにしてください。

ここでは、各学部が定める卒業要件単位（進級要件単位）を一覧表で示します。

◎各学部の履修基準は、入学年度及び学科または履修コースにより異なることがありますので、必ず所属学部の「学生便覧」で確認してください。

(2021・2020年度入学生用)

1. 文学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	
		基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	8	次の外国語のうち一つの言語で10単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		英語以外の外国語	10	
	健康・ スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	文系基礎科目	8		
	理系基礎科目	4	文系学部対象となっている科目を修得すること。	
	文系教養科目	4		
	理系教養科目	4		
	全学教養科目	2		
	開放科目	0		
	小計	48		
学部科目	専門科目	2	「専門基礎科目」2単位を含む、合計84単位以上を修得すること。	
	関連専門科目			
	専門基礎科目			
	小計	84		
合計	132			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分	必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	基礎セミナー	4	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は、通算6年までとする。 （在学年限(8年)－3～4年次の年数(2年)） ③ 言語文化2単位の不足者に限り、仮進級を認める。 ④ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。
	言語文化	18	
	健康・スポーツ科学	4	
	文系基礎科目	10	
	理系基礎科目		
	文系教養科目	6	
	理系教養科目		
	全学教養科目		
専門基礎科目	2		
計	44		

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので、77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、99ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」、「英語（上級リーディング）1」及び「英語（上級リーディング）2」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は8単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位、「英語（上級リーディング）1」及び「英語（上級リーディング）2」の計2単位が必要
ただし、「英語（上級リーディング）1」及び「英語（上級リーディング）2」はどちらかを複数履修することによっても卒業要件単位となります。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

受講については、英語検定試験の点数による受講制限があります。

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

① 卒業要件単位として、言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語4単位が必要です。

② 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1, 2は、卒業要件単位に含めることはできません。

③ 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

2. 教育学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	次の外国語のうち一つの言語で10単位を修得すること。 ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。	
		基礎セミナーB	2		
	言語文化	英語	8		
		英語以外の外国語	10		
	健康・ スポーツ科学	講義	2		
		実習	2		
	目	文系基礎科目	6		各科目区分の必要単位数を含め、22単位以上を修得すること。 (注)理系基礎科目のうち必要単位に含めることができるのは、文系学部対象に開講される数学入門、物理学入門、化学入門、生物学入門、地球科学入門及び情報リテラシー(文系)である。
		理系基礎科目	2		
		文系教養科目	4		
		理系教養科目	2		
全学教養科目					
開放科目					
小計	48				
学部科目	専門科目	66			
	関連専門科目				
	専門基礎科目	18			
	小計	84			
合計		132			

(2) 進級要件単位数

教育学部には、「進級制度」はありません。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので、77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、99ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレースメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、「英語（セミナー）」は原則として1クラス定員25名、各2単位

① 卒業要件単位は8単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」、「英語（セミナー）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することは出来ません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

① 卒業要件単位として、言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語4単位が必要です。

② 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1, 2は、卒業要件単位に含めることはできません。

③ 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

3. 法学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全 学 教 育 科 目	英語	8	【一般学生】 英語 8 単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）10 単位以上を含む合計 18 単位以上を修得すること。ただし、必要単位に含めることができるのは合計 20 単位までである。 (注) 表下の〔言語文化の修得方法例〕により修得すること。	
	言語文化 英語以外の外国語	10		
	健康・スポーツ科学 講義 実習	16～18	【外国人留学生】 日本語 10 単位以上及びその他の外国語（英語を含む）8 単位以上を含む合計 18 単位以上を修得すること。ただし、必要単位に含めることができるのは合計 20 単位までである。	
	理系基礎科目			
	文系教養科目			
	理系教養科目			
	全学教養科目			
	開放科目			
	基礎セミナ ー	基礎セミナーA 2 基礎セミナーB 2	96	(注) 理系基礎科目のうち必要単位に含めることができるのは、文系学部対象に開講される数学入門、物理学入門、化学入門、生物学入門、地球科学入門及び情報リテラシー（文系）である。
	文系基礎科目	8～10		
専門科目 関連専門科目 専門基礎科目	82～84	(注) 日本国憲法、法学、政治学は必要単位に含めることができないので注意すること。 また、文系基礎科目で必要単位に含めることができるのは合計 10 単位までである。		
合計	132	(注) 関連専門科目で必要単位に含めることができるのは合計 20 単位までである。		

〔言語文化の修得方法例〕

1) 言語文化で 18 単位を修得する場合

- ①英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 10 単位
- ②英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 6 単位＋他の英語以外の一つの言語 4 単位

2) 言語文化で 20 単位を修得する場合

- ①英語 10 単位＋英語以外の一つの言語 10 単位
(注) 英語 10 単位の修得方法は言語文化Ⅰ8 単位、言語文化Ⅱ2 単位。
なお、英語検定試験によって認定される単位は言語文化Ⅰに算入される。
- ②英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 10 単位＋他の英語以外の一つの言語 2 単位
- ③英語 8 単位＋英語以外の一つの言語 6 単位＋他の英語以外の一つの言語 6 単位

(2) 進級要件単位数

法学部には、「進級制度」はありません。

(3) 履修単位の上限

履修登録にあたっては、登録する授業科目の単位数の合計は、いずれの学期においても 24 単位を超えてはならない。なお、単位数を合計する際には、法政実習、集中講義科目、卒業論文および教職科目は除く。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので、77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、99ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、「英語（セミナー）」は原則として1クラス定員25名、各2単位

① 卒業要件単位は8単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」、「英語（セミナー）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は8単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は各言語について6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

① 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1, 2は、卒業要件単位に含めることはできません。

② 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

（注）卒業要件単位数として認められる【英語以外の外国語】は2種類までです。前ページ〔言語文化の修得方法例〕を参照すること。

3. 言語文化Ⅲ

言語文化Ⅲの科目は言語文化の卒業要件単位に含めることはできません。

全学教育科目の必要単位数「36」の中に含めることができます。

4. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

4. 経済学部 of 授業科目区分ごとの履修基準 (卒業要件単位) 一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	
		基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	8	【一般学生】 英語8単位以上及び英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）のうち一つの言語で10単位以上を修得すること。 【外国人留学生】 日本語10単位以上及びその他の外国語（英語を含む）のうち一つの言語（母国語以外の言語）で8単位以上を修得すること。
		英語以外の外国語	10	
	健康・スポーツ科学	講義	2	(注) 理系基礎科目のうち必要単位に含めることができるのは、文系学部対象に開講される数学入門、物理学入門、化学入門、生物学入門、地球科学入門及び情報リテラシー（文系）である。
		実習	2	
	文系基礎科目		8	
	文系教養科目		4	
	理系基礎科目		8	
	理系教養科目			
全学教養科目		2		
開放科目				
小計		48		
学 部 科 目	専門科目	32～	56	
	関連専門科目	0～		
	専門基礎科目	28		
	小計	84		
合計		132		

(2) 進級要件単位数

専門科目（必修）の「卒論研究」を履修するためには、卒論研究に入る学年の始めの時点で、全学教育科目の卒業要件単位48単位のうちから32単位以上、専門系科目のうちから演習Ⅰ、演習Ⅱ各2単位を含めて56単位以上、計88単位以上を修得していなければなりません。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので、77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、99ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、「英語（セミナー）」は原則として1クラス定員25名、各2単位

① 卒業要件単位は8単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」、「英語（セミナー）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

① 卒業要件単位として、言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語4単位が必要です。

② 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1, 2は、卒業要件単位に含めることはできません。

③ 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

5. 情報学部：自然情報学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	
		基礎セミナーB		
	言語文化	英語	6	
		英語以外の外国語	6	
	健康・ スポーツ科学	講義	2	
		実習		
	理系基礎科目	18	① 理系基礎科目のうち、微積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、計8単位を修得すること。 ② 「物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、物理学実験」、「化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験」、「生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験」、「地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ、地球科学実験」のうちから1組3科目、計5.5単位を修得すること。 ③ 上記②のうち、取得した組み合わせ以外の同一科目「基礎Ⅰ・Ⅱ」を1組とし、1組2科目、計4単位以上を修得すること。	
	文系基礎科目	6		
	文系教養科目			
	理系教養科目	2		
全学教養科目	2			
開放科目				
小計	44			
学部科目	専門科目	40~50	84	学部科目の詳細は、情報学部学生便覧で確認すること。
	関連専門科目	2~10		
	専門基礎科目	30~34		
	小計	84		
合計		128		

(2) 進級要件単位数

情報学部には、「進級制度」はありません。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オピ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

① 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

6. 情報学部：人間・社会情報学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	
		基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	6	
		英語以外の外国語	10	
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習		
	文系基礎科目	文系教養科目	12	*44 次の外国語のうち一つの言語で10単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。 理系基礎科目のうち、微分積分学Ⅰ又は線形代数学Ⅰを2単位以上修得すること。 *各科目区分の必要単位数の合計とは一致しないので注意すること。 (各科目区分の最低修得単位数を含め、「全学教育科目」のうちから44単位以上の修得が必要)
	理系教養科目	2		
	全学教養科目	2		
開放科目				
小計	44			
学部科目	専門科目	40～50	84 学部科目の詳細は、情報学部学生便覧で確認すること。	
	関連専門科目	2～10		
	専門基礎科目	30～34		
	小計	84		
合計		128		

(2) 進級要件単位数

情報学部には、「進級制度」はありません。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オピ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

① 卒業要件単位として、言語文化Ⅰと同一の言語4単位が必要です。

② 言語文化Ⅰで修得した言語と同一の言語の「初級【英語以外の外国語】」1, 2は、卒業要件単位に含めることはできません。

③ 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

7. 情報学部：コンピュータ科学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	*44	<p>次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。</p> <p>理系基礎科目のうち, 微分積分学Ⅰ・Ⅱ, 線形代数学Ⅰ・Ⅱ, 物理学基礎Ⅰ・Ⅱ, 物理学実験の計 13.5 単位を修得すること。</p> <p>*各科目区分の必要単位数の合計とは一致しないので注意すること。</p> <p>(各科目区分の最低修得単位数を含め, 「全学教育科目」のうちから 44 単位以上の修得が必要)</p>
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		
	健康・スポーツ科学	講義	2		
		実習			
	理系基礎科目	17	6		
	文系基礎科目	2			
	文系教養科目		2		
	理系教養科目	2			
全学教養科目	2				
開放科目					
小計	44				
学部科目	専門科目	42~50	84	学部科目の詳細は, 情報学部学生便覧で確認すること。	
	関連専門科目	2~10			
	専門基礎科目	30~34			
	小計	84			
合計		128			

(2) 進級要件単位数

情報学部には, 「進級制度」はありません。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オピ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

① 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

8. 理学部：数理学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2		
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		英語以外の 外国語	6		
	健康・ スポーツ科学	講義	2		
		実習	2		
	文系基礎科目	6			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	14	「理系基礎科目」のうち、微分積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、複素関数論の合計10単位を修得すること。 また、電磁気学Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、物理学実験、 化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験、 地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ、地球科学実験のうちから合計4 単位以上を修得すること。		
	理系教養科目	2	4		「理系教養科目」2単位を含む、合計4単位以上を修得する。
全学教養科目					
開放科目	0				
小計	42				
学 部 科 目	専門科目	80~72			
	関連専門科目	0			
	専門基礎科目	16~24			
	小計	96			
合計		138			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において、20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2~4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

9. 理学部：物理学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2		
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		英語以外の 外国語	6		
	健康・ スポーツ科学	講義	2		
		実習	2		
	文系基礎科目	6			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	21.5	「理系基礎科目」のうち、物理学基礎Ⅰ、電磁気学Ⅰ・Ⅱの合計6単位を修得すること。 また、微分積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、複素関数論、物理学実験、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験、地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ、地球科学実験のうちから合計15.5単位以上を修得すること。ただし、微分積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、複素関数論のうちから合計6単位以上を修得すること。		
	理系教養科目	2	4		「理系教養科目」2単位を含む、合計4単位以上を修得する。
全学教養科目					
開放科目	0				
小計	49.5				
学 部 科 目	専門科目	64～55			
	関連専門科目	0			
	専門基礎科目	19～28			
	小計	83			
合計		132.5			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において、20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年)－2～4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
特に、物理学基礎Ⅰは、開講対象学部が理学部向けの科目のみ卒業要件単位として認められます。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

10. 理学部：化学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2		
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		英語以外の 外国語	6		
	健康・ スポーツ科学	講義	2		
		実習	2		
	文系基礎科目	6			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	19.5	「理系基礎科目」のうち、微分積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。 また、電磁気学Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、物理学実験、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験、地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ、地球科学実験のうちから合計11.5単位以上を修得すること。		
	理系教養科目	2	4		「理系教養科目」2単位を含む、合計4単位以上を修得する。
全学教養科目					
開放科目	0				
小計	47.5				
学 部 科 目	専門科目	50~47			
	関連専門科目	0			
	専門基礎科目	34~37			
	小計	84			
合計		131.5			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において、20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2~4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

11. 理学部：生命理学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2		
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		英語以外の 外国語	6		
	健康・ スポーツ科学	講義	2		
		実習	2		
	文系基礎科目	6			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	16.5	「理系基礎科目」のうち、微分積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、複素関数論、電磁気学Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、物理学実験、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験、地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ、地球科学実験のうちから合計16.5単位以上を修得すること。		
	理系教養科目	2	4		「理系教養科目」2単位を含む、合計4単位以上を修得する。
全学教養科目					
開放科目	0				
小計	44.5				
学 部 科 目	専門科目	68～64			
	関連専門科目	0			
	専門基礎科目	20～24			
	小計	88			
合計	132.5				

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において、20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年)－2～4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

12. 理学部：地球惑星科学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2		
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
	健康・ スポーツ科学	講義	2		
		実習	2		
	文系基礎科目	6			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	17			「理系基礎科目」のうち、微分積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、複素関数論、電磁気学Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ・Ⅱ、物理学実験、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学実験、生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、生物学実験、地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ、地球科学実験のうちから合計17単位以上を修得すること。
	理系教養科目	2			4
全学教養科目					
開放科目	0				
小計	45				
学 部 科 目	専門科目	68～45			
	関連専門科目	0			
	専門基礎科目	20～43			
	小計	88			
合計		133			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
1年次終了時	1年次終了時において、20単位以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2～4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

13. 医学部：医学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		基礎セミナーB	2	
	言語文化	英語	8	
		英語以外の外国語	6	
	健康・スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
	理系基礎科目	17	「理系基礎科目」のうち、 ① 数学通論Ⅰ・Ⅱの合計4単位 ② 物理学基礎Ⅰ・Ⅱのうちから2単位以上 ③ 化学基礎Ⅰ・Ⅱのうちから2単位以上 ④ 生物学基礎Ⅰ・Ⅱの合計4単位 ⑤ 物理学実験及び化学実験のうちから1.5単位以上を含め、合計17単位以上を修得すること。	
	文系基礎科目	2	各科目区分の最低修得単位数を含め、12単位以上を修得すること。 ただし、「開放科目」で認められる卒業要件単位数は2単位までです。	
	文系教養科目	2		
	理系教養科目	2		
全学教養科目	2			
開放科目				
小計	51			
学部科目	専門科目	162		
	関連専門科目	0		
	専門基礎科目	0		
	小計	162		
合計		213		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱等
2年次終了時	2年次終了時において、『全学教育科目』51単位以上を修得し、『専門科目』のうち、医学入門、人体器官の構造並びに生体の機能及び生物の化学の2年次開講分について履修認定を受けること。	① 2年次に留める。 ② 2年次の在学年数は、通算8年までとする。 (在学年限(12年) - 3~6年次の年数(4年)) ③ ②の通算8年に達しても進級できない者については除籍する。
3年次終了時	3年次終了時において、『全学教育科目』51単位以上、『専門科目』において、所定の科目51.5単位以上、合計102.5単位以上を修得していること。 ただし、所定の科目のうち1科目の不足者に限っては、進級を認めるものとするが、この場合、全ての科目において履修認定を受けていることを必要とする。	① 3年次に留める。 ② 3年次の在学年数は、通算9年までとする。 (在学年限(12年) - 4~6年次の年数(3年)) ③ ②の通算9年に達しても進級できない者については除籍する。
4年次終了時	4年次終了時において、4年次に開講されている全科目について履修の認定を受けて、さらにその科目のうち、PBLチュートリアル及び臨床医学総論の単位を修得していること。 なお、1科目の不足により4年次へ進級した者は、上記条件に加え、不足していた1科目の単位を修得していることを必要とする。	① 4年次に留める。 ② 4年次の在学年数は、通算10年までとする。 (在学年限(12年) - 5~6年次の年数(2年)) ③ ②の通算10年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
特に「数学通論Ⅰ・Ⅱ」と「生物学基礎Ⅰ・Ⅱ」は、開講対象学部が医学部医学科向けの科目のみ卒業要件単位として認められます。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語
 - (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：
「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位
この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。
この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。
「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位
「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、「英語（セミナー）」は原則として1クラス定員25名、各2単位
 - ① 卒業要件単位は8単位
「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」、「英語（セミナー）」の各2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。
 - ② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
 - (2) 言語文化Ⅱ：
「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位
言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。
(ただし、サバイバルに代替することはできません。)
2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）
(英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。)
 - (1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位
 - ① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。
ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。
 - ② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。
(注)言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。
 - (2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位
言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。
3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度
指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。
概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

14. 医学部：保健学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	
		基礎セミナーB		
	言語文化	英語	4	
		英語以外の外国語	6	
	健康・ スポーツ科学	講義	2	
		実習	2	
理系基礎科目	9	「理系基礎科目」のうち, 数学通論Ⅰ・Ⅱ, 物理学基礎Ⅰ・Ⅱ, 化学基礎Ⅰ・Ⅱ, 生物学基礎Ⅰ・Ⅱ, 生物学実験のうちから9単位以上を修得すること。		
文系基礎科目	6	8	「文系基礎科目」, 「文系教養科目」及び「理系教養科目」のうちから6単位を含め, 合計8単位以上を修得すること。 ただし, 「全学教養科目」及び「開放科目」で必要単位に含めることができるのは, 合計2単位までです。	
文系教養科目				
理系教養科目				
全学教養科目				
開放科目				
小計	33			

		看護学専攻	放射線技術 科学専攻	検査技術科学 専攻	理学療法学 専攻	作業療法学 専攻
学 部 科 目	専門科目	67	61	66~70	70	71
	関連専門科目	0	0	0	0	0
	専門基礎科目	24	33	21~25	21	22
	小計	91	94	91	91	93

合計	124	127	124	124	126
----	-----	-----	-----	-----	-----

(2) 進級要件単位数

医学部保健学科には, 「進級制度」はありません。

ただし, 3年次秋学期以降または4年次春学期以降の臨床(臨地)実習等を履修するためには, 各専攻が定める履修条件を満たしていなければなりません。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は4単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」の2単位が必要
同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

15. 工学部：化学生命工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	47	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		基礎セミナーB			
	言語文化	英 語	6		
		英語以外の 外国語	6		
	健康・ スポーツ科学	講 義	2		
		実 習			
	文系基礎科目	4			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	21	数 学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ，物理学実験の合計7.5単位を修得すること。 化 学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計5.5単位を修得すること。		
	理系教養科目	4			
全学教養科目	2				
開放科目					
小 計	47				
学 部 科 目	専 門 科 目	38			
	関 連 専 門 科 目	3			
	専 門 基 礎 科 目	48			
	小 計	89			
合 計		136			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2~4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	① 「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語(外国人留学生は日本語でもよい))のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上, または, 英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ② 理系基礎科目は, 物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め, 全学教育科目で41単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は, 通算6年までとする。 (在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)) ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

16. 工学部：物理工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	49	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		
	健康・スポーツ科学	講義	2		
		実習			
	文系基礎科目	4			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	23			
	理系教養科目	4			
全学教養科目	2				
開放科目					
小計	49				
学部科目	専門科目	49			
	関連専門科目	4			
	専門基礎科目	31			
	小計	84			
合計		133			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2~4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	① 「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語(外国人留学生は日本語でもよい))のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上、または、英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ② 理系基礎科目は、物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め、全学教育科目で41単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は、通算6年までとする。 (在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)) ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

17. 工学部：マテリアル工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	49	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		基礎セミナーB			
	言語文化	英 語	6		
		英語以外の 外国語	6		
	健康・ スポーツ科学	講 義	2		
		実 習			
	文系基礎科目	4			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	23			
	理系教養科目	4			
全学教養科目	2				
開放科目					
小 計	49				
学 部 科 目	専 門 科 目	41			
	関 連 専 門 科 目	1			
	専 門 基 礎 科 目	43			
	小 計	85			
合 計	134				

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2~4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	① 「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語(外国人留学生は日本語でもよい))のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上、または、英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ② 理系基礎科目は、物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め、全学教育科目で41単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は、通算6年までとする。 (在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)) ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

18. 工学部：電気電子情報工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	49	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		基礎セミナーB			
	言語文化	英 語	6		
		英語以外の 外国語	6		
	健康・ スポーツ科学	講 義	2		
		実 習			
	文系基礎科目	4			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	23			
	理系教養科目	4			
全学教養科目	2				
開放科目					
小 計	49				
学 部 科 目	専 門 科 目	45			
	関 連 専 門 科 目	4			
	専 門 基 礎 科 目	38			
	小 計	87			
合 計		136			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2~4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	① 「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語(外国人留学生は日本語でもよい))のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上、または、英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ② 理系基礎科目は、物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め、全学教育科目で41単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は、通算6年までとする。 (在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)) ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

19. 工学部：機械・航空宇宙工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	49.5	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		
	健康・スポーツ科学	講義	2		
		実習			
	文系基礎科目		4		
		文系教養科目			
	理系基礎科目	23.5	数学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ, 線形代数学Ⅰ・Ⅱ, 複素関数論の合計10単位を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ, 電磁気学Ⅰ・Ⅱ, 物理学実験の合計9.5単位を修得すること。 化学：化学基礎Ⅰ・Ⅱの合計4単位を修得すること。		
	理系教養科目	4			
全学教養科目	2				
開放科目					
小計	49.5				
学部科目	専門科目	37			
	関連専門科目	3			
	専門基礎科目	46.5			
	小計	86.5			
合計		136			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2~4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	① 「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語(外国人留学生は日本語でもよい))のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上, または, 英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ② 理系基礎科目は, 物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め, 全学教育科目で41単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は, 通算6年までとする。 (在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)) ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

20. 工学部：エネルギー理工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	49	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		
	健康・スポーツ科学	講義	2		
		実習			
	文系基礎科目	4			
	文系教養科目				
	理系基礎科目	23			
	理系教養科目	4			
全学教養科目	2				
開放科目					
小計	49				
学部科目	専門科目	34			
	関連専門科目	4			
	専門基礎科目	50			
	小計	88			
合計		137			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2~4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	① 「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語(外国人留学生は日本語でもよい))のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上、または、英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ② 理系基礎科目は、物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め、全学教育科目で41単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は、通算6年までとする。 (在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)) ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(2021・2020年度入学生用)

21. 工学部：環境土木・建築学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	45.5	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		基礎セミナーB			
	言語文化	英語	6		
		英語以外の外国語	6		
	健康・スポーツ科学	講義	2		
		実習			
	文系基礎科目		4		
		文系教養科目			
	理系基礎科目	19.5	数学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ，物理学実験の合計7.5単位を修得すること。 化学：化学基礎Ⅰ・Ⅱの合計4単位を修得すること。		
	理系教養科目	4			
全学教養科目	2				
開放科目					
小計	45.5				

科目区分		環境土木工学プログラム	建築学プログラム
学部科目	専門科目	46	47
	関連専門科目	5	8
	専門基礎科目	37	33
	小計	88	88
合計		133.5	133.5

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	理系基礎科目を5科目以上修得していること。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 (在学年限(8年) - 2~4年次の年数(3年)) ③ ②の通算5年に達しても進級できないものについては除籍する。
2年次終了時	① 「言語文化」として英語6単位以上及び英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語(外国人留学生は日本語でもよい))のうちから1外国語4.5単位以上を含む10.5単位以上, または, 英語5単位以上及び上記英語以外の1外国語6単位以上を含む11単位以上を修得していること。 ② 理系基礎科目は, 物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め, 全学教育科目で41単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は, 通算6年までとする。 (在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)) ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

① 卒業要件単位は6単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

22. 農学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全 学 教 育 科 目	基礎セミナー	基礎セミナーA	2	次の外国語のうち一つの言語で6単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、 朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「日本語」を修得してもよい。
		基礎セミナーB		
	言語文化	英 語	8	
		英語以外の 外国語	6	
	健康・ スポーツ科学	講 義	2	
		実 習	2	
	文系基礎科目		2	
	文系教養科目		2	
	理系基礎科目		19	
	理系教養科目		4	
全学教養科目		2		
開放科目				
小 計		49		
学 部 科 目	専 門 基 礎 科 目		42	生物環境科学科および資源生物科学科 「専門基礎科目」のうち、必修科目42単位を修得すること。 応用生命科学科 「専門基礎科目」のうち、必修科目38単位、選択必修科目4 単位以上を修得すること。
	専 門 科 目		45	「専門科目」のうち、必修科目22単位（生物環境科学科、応 用生命科学科）または24単位（資源生物科学科）＋選択必修 科目23単位以上（生物環境科学科、応用生命科学科）または 21単位以上（資源生物科学科）を修得すること。 なお、詳細は農学部学生便覧で必ず確認すること。
	小 計		87	
合 計		136		

[備考] 農学部特別講義の単位認定は、上限6単位とする。

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	2年次終了時において、70単位以上修得していること。 ただし、70単位の中に全学教育科目を42単位以上含んでいること。	① 2年次に留める。 ② 2年次の在学年数は、通算6年までとする。 (在学年限(8年)－3～4年次の年数(2年)) ③ ②の通算6年に達しても進級できないものについては除籍する。
3年次終了時	3年次終了時において、110単位以上修得していること。 ただし、110単位 ^注 の中に言語文化14単位、専門基礎科目(生命農学序説、情報リテラシー入門、生物化学1、無機化学、有機化学1を含む)26単位以上および実験実習(基盤実験実習を含む)8単位を含んでいること。	① 3年次に留める。 ② 3年次までの在学年数は、通算7年までとする。 (在学年限(8年)－4年次の年数(1年)) ③ ②の通算7年に達しても進級できない者については除籍する。

注) ここでいう110単位は、進級判定年次における修得単位数のうち、卒業要件単位数の科目区分ごとの必要単位数を上限として集計する。超えた分については、110単位に計上されない。

〔重複履修等〕

1. 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
2. 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので77ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
3. 理系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので99ページに掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化の履修基準〕

1. 英語

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：

「英語（サバイバル）」は原則として1クラス定員40名、1単位

この授業は、プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。

この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。

「英語（基礎）」、「英語（中級）」は原則として1クラス定員40名、各1単位

「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は原則として1クラス定員20名、「英語（セミナー）」は原則として1クラス定員25名、各2単位

① 卒業要件単位は8単位

「英語（基礎）」、「英語（中級）」の各1単位、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」、「英語（セミナー）」の各2単位が必要

同一科目を複数履修することはできません。

② 「英語（サバイバル）」は随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

(2) 言語文化Ⅱ：

「特別英語セミナー（ライティング）」、「特別英語セミナー（プレゼンテーション）」、「特別英語セミナー（リーディング）」、「特別英語セミナー（資格試験英語）」は原則として1クラス定員20名、各2単位

言語文化Ⅱで取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰで修得すべき単位に代替することができます。

（ただし、サバイバルに代替することはできません。）

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する。）

(1) 言語文化Ⅰ（必修科目）：原則として1クラス定員30名、各1.5単位

① 卒業に必要な英語以外の外国語については、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4の中から、卒業要件単位として6単位（1言語の合計6単位）が必要です。

ただし、6単位の中には、【英語以外の外国語】3, 4を合計した3単位が含まれていなければなりません。

② I期に履修した【英語以外の外国語】を、II期に異なる【英語以外の外国語】に変更する場合は、学部指定オビ以外（II期、III期の5時限目）に開講されるクラスで受講し、①と同様の単位修得が必要です。

（注）言語文化Ⅰで認められる卒業要件単位数は6単位までです。

(2) 言語文化Ⅱ：原則として1クラス定員30名、各2単位

言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

3. 英語及び英語以外の外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「言語文化Ⅰ」の単位として認定する制度です。

概要及び単位認定制度申請方法等については、81ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。